

**公共施設等の案内用図記号等の検討事業
成果報告書**

平成 29 年（2017 年）6 月

はじめに

この報告書は、日本財団の平成 28 年度助成事業として実施した「公共施設等の案内用図記号等の検討」事業の成果をまとめたものです。

本事業が対象とする「案内用図記号(ピクトグラム)」とは、不特定多数の人々が利用する公共交通機関や公共施設、観光施設等において、文字・言語によらず対象物、概念または状態に関する情報を提供する図形であり、文字情報と比較して、だれもがひと目でその表現内容を理解でき、遠方からの視認性にも優れているといわれています。また、言語の知識を要しないといった利点があり、視力の低下した高齢者や障害のある方、日本語のわからない外国人観光客等にも理解できる有効な情報提供手法として、日本を含め世界中の公共交通機関、観光施設等で広く掲示されています。

当財団では 2002 年日韓ワールドカップ開催を控えた平成 11 年度から 12 年度にかけて、日本財団からの補助事業として 125 個の図記号を 8 つのカテゴリに体系化した「標準案内用図記号ガイドライン」を作成し、そのうち 110 個が「JISZ8210 案内用図記号」として制定されるに至っています。

本事業では 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、前記ガイドライン作成後の社会情勢の変化等を踏まえて再整理することとしました。平成 27 年度から国内の公共交通機関や公共施設、障害者団体等関係者へのアンケート調査、ヒアリング調査を実施し、調査結果から新たに作成や見直しが必要だと考えられる図記号項目の絞り込みを行った項目について、図案を作成し、理解度や視認性の試験を経て、新たな図記号を作成するに至りました。

更に、作成した図記号を加え再整理した「標準案内用図記号ガイドライン改訂版」としてとりまとめを行い、周知啓発に努めることにより、だれもが安全に、安心して移動できるサイン環境構築の一助となれば幸いです。

調査及び作成にあたっては、委員会委員長の秋山哲男中央大学研究開発機構教授を始め、同委員会 WG 主査の児山啓一 ISO/TC145/SC1 国内対策委員会主査、委員会委員各位、関係機関、交通事業者の皆様に、多大なるご協力とご助言を賜りました。

ここに、改めて感謝の意を表する次第です。

平成 29 年 6 月

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
理事長 本田 隆 文

公共施設等の案内用図記号等の検討事業 成果報告書

目次

はじめに

第1章 事業概要

1.1 事業目的	4
1.2 計画の概要	4
1.3 スケジュール	6

第2章 事業経緯

2.1 平成28年度事業の審議項目	7
2.2 図記号の項目と図案の審議	8
2.3 理解度・視認性試験	13
2.4 「標準案内用図記号ガイドライン改訂版」への採用	22
2.5 表示事項及び推奨度	28
2.6 平成27年度、平成28年度 審議項目の結果一覧	29
2.7 図記号補正の推移	32

あとがき

参考資料

参考1 ヒアリング議事録	41
参考2 理解度・視認性試験回答一覧	59
参考3 会議開催記録	
第1回 ワーキング	93
第1回 委員会	99
第2回 委員会	107
第2回 ワーキング	113
第3回 委員会	121

公共施設等の案内用図記号等の検討委員会 構成

(平成 29 年 3 月時点 委員五十音順、敬称略)

委員長	秋山 哲男	中央大学研究開発機構 教授
委員	赤瀬 達三	黎デザイン総合計画研究所 代表取締役
	阿久井 薫	東京地下鉄株式会社 鉄道本部営業部 サインシステム担当課長
	井川 武史	東京都 都市整備局都市基盤部 交通プロジェクト担当課長
	伊藤 喜彦	東日本旅客鉄道株式会社 鉄道事業本部設備部 次長
	江口 靖二	一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事
	加藤 久明	日本デザイン学会 名誉会員
	児山 啓一	ISO/TC145/SC1国内対策委員会 主査 (株)アイ・デザイン 代表取締役
	定村 俊満	公益社団法人日本サインデザイン協会 会長 株式会社ソーシャルデザインネットワークス 代表取締役社長
	神野 美和	東京都 オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部 事業推進担当課長
	高柴 和積	一般社団法人全国空港ビル協会 理事
	高橋 儀平	東洋大学ライフデザイン学部 教授
	谷口 善秀	日本政府観光局(JNTO) インバウンド戦略部 次長
	田村 弘明	東京都 産業労働局観光部受入環境課 事業調整担当課長
	辻村 由佳	一般財団法人国際観光サービスセンター 成田国際空港ツーリストインフォメーションセンター所長
	津田 吉信	一般社団法人日本旅客船協会 企画部長
	永田 邦博	経済産業省 産業技術環境局国際標準課 課長補佐
	中野 豊	一般社団法人日本標識工業会 会長 ISO/TC145/SC2国内対策委員会 主査
	中村 祐二	ISO/TC145国内対策委員会 委員長 ISO/TC145/SC3国内対策委員会 主査 学校法人自由学園 LAリーダー 非常勤講師
	平沢 善幸	国土交通省 総合政策局安心生活政策課 交通バリアフリー政策室長
	福嶋 教郷	国土交通省 観光庁外客受入担当参事官付 課長補佐
	船戸 裕司	公益社団法人日本バス協会 常務理事
	室谷 正裕	一般社団法人日本民営鉄道協会 常務理事
	森川 美和	公益財団法人共用品推進機構総務部 総務課長
	山崎 朋子	一般財団法人日本規格協会 国際標準化ユニット 国際規格開発普及グループ国際規格開発普及チーム 国際規格開発普及課長

公共施設等の案内用図記号等の検討ワーキング 構成

(平成 29 年 3 月時点 委員五十音順、敬称略)

主査	児山 啓一	ISO/TC145/SC1国内対策委員会 主査 (株)アイ・デザイン 代表取締役
委員	赤瀬 達三	黎デザイン総合計画研究所 代表取締役
	秋山 哲男	中央大学研究開発機構 教授
	江口 靖二	一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事
	定村 俊満	公益社団法人日本サインデザイン協会 会長 株式会社ソーシャルデザインネットワークス 代表取締役社長
	高橋 儀平	東洋大学ライフデザイン学部 教授
	永田 邦博	経済産業省 産業技術環境局国際標準課 課長補佐
	中野 豊	一般社団法人日本標識工業会 会長 ISO/TC145/SC2国内対策委員会 主査
	中村 祐二	ISO/TC145国内対策委員会 委員長 ISO/TC145/SC3国内対策委員会 主査 学校法人自由学園 LAリーダー 非常勤講師
	山崎 朋子	一般財団法人日本規格協会 国際標準化ユニット 国際規格開発普及グループ国際規格開発普及チーム 国際規格開発普及課長

オブザーバー

荒木 祐二	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 大会準備運営局大会計画部運営準備課 サイネージ担当課長
遠藤 純二郎	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 マーケティング局管理部ブランド管理課 ブランドディレクター
岸本 紀子	国土交通省 国土地理院基本図情報部 国土基盤情報調整官

事務局

坂下 晃	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 理事兼バリアフリー推進部長
竹島 恵子	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部企画調査課 担当課長
堀口 仁美	株式会社アイ・デザイン 取締役エグゼクティブデザイナー

第1章

第1章 事業概要

1.1 事業目的

公共交通機関や観光施設等の利用者の円滑な移動を支援するためのサインシステムとして案内用図記号（図記号）は、情報を文字・言語によらずだれもがひと目で表現内容を理解でき、遠方からの視認性にも優れている。また、言語の知識を要しないといった利点があり、視力の低下した高齢者や障害のある方、日本語のわからない外国人観光客等にも理解できる有効な情報提供手法として、日本を含め世界中の公共交通機関、観光施設等で広く使用されている。

図記号は2002年日韓ワールドカップ開催が決定した当時、わかりやすいサイン環境を目指すため125項目が策定され、「標準案内用図記号ガイドライン」をまとめるに至った（平成11、12年度日本財団補助事業）。その後、「JISZ8210案内用図記号」として登録されたことは周知の事実である。その後、平成23年度自主事業として図記号の再調査を行った所、見直しや新規作成の必要性がある図記号があることがわかった。

一方、ビジット・ジャパン・キャンペーン等により、訪日外国人数は東日本大震災後落ち込んだものの2016年末には2,400万を超え、観光庁は更なる目標値として2020年には4,000万人を掲げキャンペーンを展開しているところである。東京への観光客数が今後益々増加していくことが予想され、図記号の必要性が高まると思われる。しかし、様々な機関等で実施されている調査結果で訪れたい国として高評価を得てはいるが、コミュニケーション部分での課題（特に言語やサイン環境のわかりにくさ）が指摘されている。

そこで、平成27年度から、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、よりわかりやすいサイン環境を目指すため、図記号の検討を進めた。図記号の事例収集を行った上、ヒアリング調査にて図記号を含むサイン環境に関する要望を集めた結果、新たに必要になるであろう図記号の作成や見直しすべき図記号の選定や作成を進めたが、候補とすべき図記号の数も多く、調整課題も多かったため、今年度も引き続き検討を進めることとなった。

本事業では、国内の交通事業者や公共施設、また障害のある方や外国人観光客にとって図記号の新規作成や見直しが必要だと考えられる図記号項目についてのアンケート、ヒアリング調査結果から検討すべき図記号項目を絞り込み、それらの図記号案を検討、作成することを目的とした。更に、前述の「標準案内用図記号ガイドライン」の「改訂版」を作成することにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、よりわかりやすいサイン環境の推進を促し、事業終了後に、経済産業省へ報告することで、国内標準化（JIS化）及び国際標準化（IS化）への働きかけを進める。

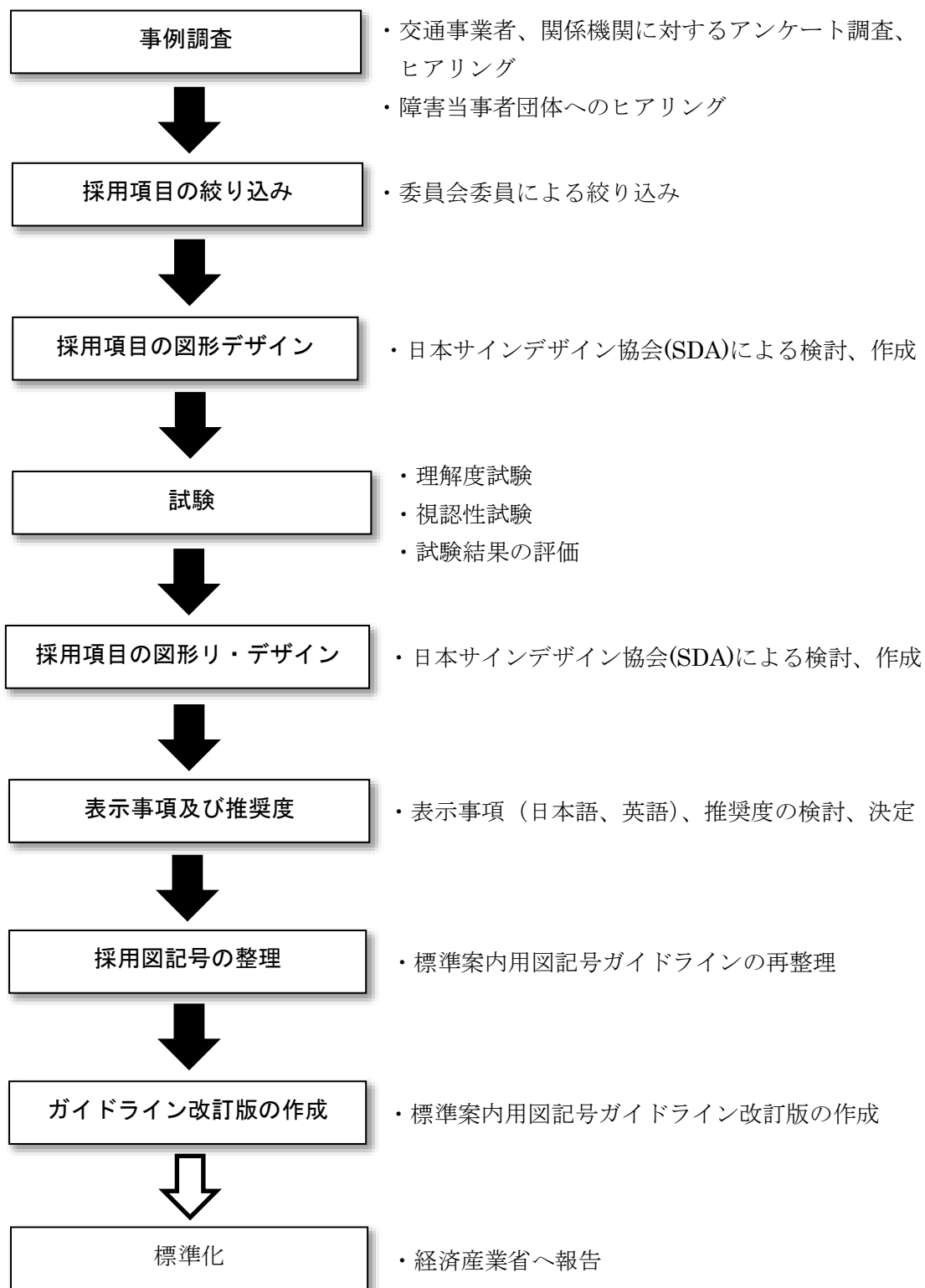
1.2 計画の概要

「公共施設等の案内用図記号等の検討委員会」を設置し、検討を進めることとなった。本事業では、平成27年度事業で絞り込まれた図記号項目について、統一感のある図記号とするためにリ・デザイン作業を進めた。同時に、昨年度事業結果として審議継続となった項目についても作業を進めた。続いて、作成した図記号案のわかりやすさを確認する理解度試験と、見やすさを確認する視認性試験を行った上で採用図記号として、「標準案内用図記号ガイドライン」を再整理し、「標準案内用図記号ガイドライン改訂版」として取り

第1章

纏め、本事業終了後、経済産業省へ報告する予定である。

○事業の流れ



第1章

1.3 スケジュール

平成27年度で候補図形の絞り込み、作成までを予定していたが、候補とする項目が多かったことと、検討に時間を要する項目が含まれていたため、平成28年度も引き続き検討を進めた。

	平成27年度				平成28年度				平成29年度
	1/4	2/4	3/4	4/4	1/4	2/4	3/4	4/4	4~6月
事例収集			—						
検討項目の絞り込み			—						
図形デザイン				—		—			
試験				—			—		
検討項目の再整理					—	—			
図形リ・デザイン								—	
表示事項と推奨度の検討								—	
報告書作成				—					—
標準案内用図記号が 「ドライン改訂版」の作成									—
委員会の開催	○		○	○		●	●	●	
ワーキング開催			○	○		●		●	

第2章

第2章 事業経緯

2.1 平成28年度事業の審議項目

平成27年度事業の継続審議計10項目と、平成28年度分として整理した計26項目の合計36項目について審議した。

2.1.1 平成27年度事業の継続審議項目：計10項目

<表示要素の検証（人型）>

①公共・一般施設	
1-80.	エレベーター

<理解度不足の検証>

①公共・一般施設	
1-5.	地下鉄
1-30.	駅事務室／駅長室／乗務員室／駅員・係員
1-47.	一般車・自家用車
⑨アクセシブル	
9-2.	コミュニケーション：筆談対応

<審議不十分>

②交通施設	
2-37.	バス停
⑥禁止	
6-1.	携帯電話使用禁止

<方針の再定義>

①公共・一般施設	
1-5.	授乳室
1-30.	海外発行カード対応ATM
1-47.	祈祷室

2.1.2 平成28年度分として整理した項目：計26項目

①公共・一般施設	
1-1.	案内所
1-2.	情報コーナー
1-3.	観光案内所
1-25.	充電コーナー
1-26.	自動販売機
②交通施設	
2-31.	レンタサイクル
③商業施設	
3-9.	コンビニエンスストア
④観光・文化・スポーツ施設	
4-14.	ボランティアガイド
4-16.	イヤホンガイド
⑤安全	
5-1.	AED
5-9.	非常停止ボタン
⑥禁止	
6-8.	ホームドア／ホーム柵禁止行為 (たてかけない)
6-8.	ホームドア／ホーム柵禁止行為 (乗り出さない)
6-14.	危険物

⑧指示	
8-1.	シートベルト
⑨アクセシブル	
9-9.	補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）同伴
9-14.	Accessible Taxi
9-23.	障害者用のヘルプカウンター
⑩お手洗関連	
10-1.	和式
10-2.	洋式
10-8.	ベビーチェア
10-9.	おむつ交換台
10-10.	キッズトイレ／子供用／男子用小便器
10-12.	多機能トイレ／ファミリートイレ
10-13.	多目的シート／介護用ベッド
10-14.	フィッティングボード／着替え台

第2章

2.2 図記号の項目と図案の審議

項目の採用不採用と図案について、委員会で審議し以下の結論を得た。

2.2.1 平成27年度分の継続審議項目

項目	審議結果	審議要点
1-5 授乳室 H27年度案 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	現在の授乳室は、調乳設備の有無など仕様が様々で、都度「母子」の図記号か「ほ乳瓶」の図記号か、相応しい表示が異なる。そのため図記号の統一は、実態にそぐわない場合が発生する。 ※「母乳育児の国際シンボルマーク」を推奨している「非営利活動法人日本ラクテーション・コンサルタント協会」にヒアリングを行った。
1-30 海外発行カード対応 ATM H27年度案  H28年度c案 	H28年度図記号c案を採用する。 →H28年度試験を行う。	海外発行カード対応と、そうではないATMが混在する場合の表示区別が必要なことから、H28年度図記号案は、H27年度図記号案に「地球儀」のアイコンを追加し「海外」を強調した。 実際の使用状況を表示した合成写真を提示して、H28年度試験を行う。
1-47 祈祷室 H27年度案 	H27年度図記号案(お辞儀の角度15度、手の表現はなし)を採用する。 項目名を「礼拝室」とする。 →H28年度試験を行う。	観光庁「ムスリムおもてなしブック」で、「礼拝室」という表現を推奨している。 H27年度試験の結果が基準に達していなかったため、実際の使用状況を表示した合成写真を提示して、H28年度試験を行う。 ※「公益財団法人笹川平和財団笹川中東イスラム基金事業室」と「サウジアラビア王国大使館」にヒアリングを行い、各国の規格についても調査した。
1-80 エレベーター H27年度案 	図記号案は不採用とし、これ以上の審議は行わない。 現JIS図記号のままとする。	現JIS図記号交換の費用対効果を考えると、関係事業者のリスクが大きい。
2-2 地下鉄 H27年度案 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	「地下鉄」という項目は、現JISの「鉄道」を細分化することになり、複雑になる。

第2章

項目		審議結果	審議要点
2-37	バス停 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	街中の案内図中で複数の現 JIS の「バス」が表記されていれば、バス停だと理解が可能である。
6-1	携帯電話使用禁止 	検討は不要とし、これ以上の審議は行わない。 現 JIS 図記号のままとする。	現 JIS の図記号の図柄は、概念を表すものと捉え、変更は行わない。
9-2	コミュニケーション：筆談対応  	H28 年度図記号 a 案を採用する。 →H28 年度試験を行う。	現 JIS コミュニケーション多言語対応のシリーズとしてデザイン。 H28 年度図記号案は、視認性向上の為、筆談用の紙(ボード)と筆記具の表現をリ・デザインした。 実際の使用状況を表現した合成写真を提示して、H28 年度試験を行う。
2-17	駅事務室 / 駅長室 / 乗務員室 / 駅員・係員  	H28 年度図記号 c 案を採用する。 →H28 年度試験を行う。 項目名を「駅事務室/駅係員」とする。	H28 年度図記号案は、H27 年度図記号案に現 JIS 図記号の「鉄道」を追加し「駅」を強調した。 実際の使用状況を表現した合成写真を提示して、H28 年度試験を行う。
2-18	一般車 	H27 年度図記号案を採用する。 →H28 年度試験を行う。	H27 年度試験の結果が基準に達していなかったため、実際の使用状況を表現した合成写真を提示して、H28 年度試験を行う。

第2章

2.2.2 平成28年度分として整理した項目：計26項目+追加1項目=計27項目




「ホームドア:手を挟まないように注意」の項目が新規追加された。

項目		審議結果	審議要点
1-1	案内所	参考：現 JIS  ISO7001 PI PF 001Information 	現 JIS 図記号のままとする。 ISO 始め各国の規格でも「i」に統一している国が多数であることから、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて「i」に統一してシンプルにするという観点は必須。しかし、これまでの「?」の全国的な広がりやその歴史に配慮する必要がある、併存しても不便はないという意見もあることと、人的援助が得られる場所の表示として「?」は使用価値も高いことから、現状のまま併存とする。
1-2	情報コーナー	参考：現 JIS 	現 JIS 図記号のままとする。 項目名を「案内/Information」に変更する。
1-3	観光案内所	参考：JNTO 認定シンボルマーク 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。 観光案内所は JNTO 認定シンボルマーク表記対象の施設であり、当委員会の図記号とは別の位置づけとなる。
1-25	充電コーナー	参考(注：図の意味は異なる) JISS0103_5-1-6 電源入力  ISO7010 M006 Disconnect mains plug from electrical outlet  ISO7000 2616 External cord connected 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、H28 年度試験を行う。 旅行者の通信支援等のために必要な項目である。 国際的にも汎用性が高い A タイプ(2穴：日本標準)を図材にした図記号を作成する。
1-26	自動販売機	参考：ISO7001 PI CF 020 Snack machine 	自動販売機自体が一般的ではない国もあるが、日本においては熱中症予防の水分補給のためにも必要な項目である。 ISO7001「Snack machine」を原案とし、標準案内用図記号スタイルのデザインで図記号を作成する。

第2章

項目		審議結果	審議要点
2-31	レンタサイクル 参考：ISO7001 PI TF 029 Rental bicycle 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	ISO7001「Rental bicycle」を原案とし、標準案内用図記号スタイルのデザインで図記号を作成する。
3-9	コンビニエンスストア 参考：東京都 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 東京都の図についても H28年度試験を行う。	東京都の図を基に、図記号を作成する。その際、時間（24h）は店舗を制限することになるので入れない。
4-14	ボランティアガイド	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	ボランティアと職務で行うガイドとの区別がつきにくい。
4-16	イヤホンガイド 参考：ISO7001 PI TC 014 Audio tour 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	ISO7001「Audio tour」を原案とし、標準案内用図記号スタイルのデザインで図記号を作成する。
5-1	AED 参考：(一財)日本救急医療財団 商標登録  ISO7010 E010 Automated external heart defibrillator 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	既に ISO7010 で規定されている図記号と国内で登録、使用されている図記号の統一および調整が難しい。 ※既に普及している一般財団法人日本救急医療財団のマークとの調整を図るため、ヒアリングを行った。
5-9	非常停止ボタン 参考：ISO7010 E020Emergency stop button  JIS Z 8210 非常 ボタン 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。 項目名を「列車の非常 停止ボタン」とする。	定義を「列車の」非常停止ボタンとし、列車を停止する意図が明確に伝わる図記号を作成する。
6-8-1	ホームドア/ホーム柵 禁止行為 「たてかけない」	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	ホームドア「乗り出さない」と併記することを踏まえたデザインで図記号を作成する。
6-8-2	ホームドア/ホーム柵 禁止行為 「乗り出さない」	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	ホームドア「たてかけない」と併記することを踏まえたデザインで図記号を作成する。

第2章

項目		審議結果	審議要点	
6-8-3	ホームドア/ホーム柵 注意行為 「ドアに手を挟まないように注意」	新規項目として追加。 図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	ホームドア付近での類似表示として、「手をはさまないように注意」という項目が必要。	
6-14	危険物	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	各自治体の火災予防条例で規定されており、ダブルスタンダードになる可能性がある。	
8-1	シートベルト (バス)	参考: ISO7010 M020 Wear safety belts 	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。 分類を⑧指示とする。 項目名を「シートベルトを締める」とする。	ISO7001「Wear safety belts」を原案とし、標準案内用図記号スタイルのデザインで図記号を作成する。 タクシーや船舶にも使用できる汎用性のある図記号とする。
9-9	補助犬 (盲導犬・介助犬・聴導犬) 同伴	参考: 厚生労働省の啓発用  ISO7001 PI PF 046 Accessibility, assistance dog 	項目は不採用、これ以上の審議は行わない。	身体障害者補助犬法に抵触する可能性がある。 ※厚生労働省の啓発用マークとの調整を図るため、ヒアリングを行った。
9-14	アクセシブルタクシー	図記号を作成する。 →図記号案確定次第、 H28年度試験を行う。	現 JIS「タクシー」、他の交通機関との弁別性に配慮した図記号を作成する。	
9-23	障害者用のヘルプカウンター	不採用とするが、項目は必要、見送り。 項目名を「ヘルプポイント」とする。	「?」や「i」と混乱する懸念がある。 障害者に限らず全ての人を対象とした人的援助が得られる場所である「ヘルプポイント」として、定義を再検討する必要がある。	
10-1	和式	不採用とするが、項目は必要、見送り。	項目としては必要だが、国土交通省の検討委員会でトイレの機能分散化も検討され、設備のあり方が見直しされることになるため、国と歩調を合わせる必要がある。	
10-2	洋式	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-8	ベビーチェア	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-9	おむつ交換台	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-10	キッズトイレ/子供用/男子用小便器	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-12	多機能トイレ/ファミリートイレ	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-13	多目的シート/介護用ベッド	不採用とするが、項目は必要、見送り。		
10-14	フィッティングボード/着替え台	不採用とするが、項目は必要、見送り。		

第2章



2.3 理解度・視認性試験

2.3.1 試験実施概要

作成した図記号案について、一般に対する評価を客観的に把握するために理解度及び視認性試験を行った。なお、平成28年度の理解度試験は、実際の使用状況を表現した合成写真を提示する方法とした。

1) 試験対象項目 (17項目)

①平成27年度継続審議項目の内、試験結果が基準に達していなかったため、同じ図記号案で再試験を行った項目








	
礼拝室	一般車

②平成27年度継続審議項目の内、試験結果が基準に達していなかったため、デザインを見直して試験を行った項目

		
海外発行カード対応 ATM	駅事務室/ 駅係員	コミュニケーション：筆談対応

③平成28年度分として整理した項目の内、図記号案を作成して試験を行った項目

・理解度試験：自由記述方式

				
充電コーナー	自動販売機	レンタサイクル	A案コンビニエンスストア	(比較の為追加) B案コンビニエンスストア(東京都)
				
イヤホンガイド	アクセシブルタクシー			

・理解度試験：四者択一方式

				
列車の非常停止ボタン	ホームドア/ホーム柵：たてかけない	ホームドア/ホーム柵：乗り出さない	ホームドア/ホーム柵：手を挟まないように注意	シートベルトを締める

第2章

2) 実施方法：ウェブ調査（株式会社楽天リサーチ）

3) 実施時期：平成28年12月22日（金）～平成29年1月6日（金）

4) 実施国及び対象者数：5カ国（日本、英国、米国、中国、シンガポール）合計640名

①日本 400名

グループ		年齢区分	対象者数
男性		15-30歳	40
		31-50歳	40
		51-64歳	40
女性		15-30歳	40
		31-50歳	40
		51-64歳	40
高齢者	男性	65歳以上	40
	女性	65歳以上	40
※性別、年齢問わず		車椅子使用者	45
		聴覚障害者	35
合 計			400

②英国、米国、中国、シンガポール 240名（1カ国あたり60名）

グループ		年齢区分	対象者数
男性		15-30歳	10
		31-50歳	10
		51歳以上	10
女性		15-30歳	10
		31-50歳	10
		51歳以上	10
1カ国あたり			60

※コンビニエンスストアについては、A案とB案でグループを2つに分けて実施したため、対象者数は合計320名となる。（日本200名、英国、米国、中国、シンガポール各国30名）

第 2 章

2.3.2 調査画面構成

調査画面は、説明ページ、フェイスページ、記入例ページ及び調査ページの順で構成される。調査ページの表示順番は、順序効果の偏りを防止するためランダム表示とした。

1) 説明ページ：調査内容と記入方法の説明をするページ

以下の質問では、ご利用のブラウザの表示を100%に設定して頂いた上、
画像をきちんと確認した上で回答してください。

これからお見せるいくつかの図記号(ピクトグラム)の評価について、ご協力をお願いします。

ご注意
*調査の目的は図記号を評価することにあります。
*あなたの知識や、見え方を評価するものではないので、お分かりになる範囲でお答えください。
*回答はお一人でお願します。どなたにも相談しないでください。
*時間制限はありませんが、それぞれの回答にあまり時間をかけないでください。

戻る 進行

2) フェイスページ：日付や回答者の属性を回答するページ

SC2
あなたの年齢をお答えください。

14才以下
 15～18才
 19～24才
 25～34才
 35才以上

SC3
あなたの性別をお答えください。

男性
 女性

SC4
あなたの最終学歴をお答えください。

中学卒業
 高校卒業
 大学以上
 その他

SC5
あなたが外出時に使用する移動手段はありますか。
※全てはまるものをお答えください。
(すべてでも)

歩行
 自転車
 電動自転車
 歩行機
 車
 自転車
 コミュニケーションツール(コミュニケーション支援アプリ、連絡先等)
 その他 []

SC6
普段のもの見え方について、あなたにあてはまるものをお答えください。
※普段スマホ、コンタクトを使用している方は、使用時の見え方についてお答えください。

特に問題なし
 見えづらい
 見えない

SC7
普段の聞こえ方について、あなたにあてはまるものをお答えください。
※普段補聴器を使用している方は、使用時の聞こえ方についてお答えください。

特に問題なし
 聞こえづらい
 聞こえない

SC8
あなたが現在お持ちしているPCをお答えください。

PC(デスクトップパソコン以上)
 PC(タブレットパソコン未満)
 スマートフォン
 スマートフォン
 その他

戻る 進行

第2章

3) 記入例ページ：回答の記入方法を例示するページ



4) 調査ページ：回答を送信するページ（調査項目分の数）



第 2 章

2.3.3 理解度試験

①自由記述方式

1) 評価基準

評価基準は、ISO 9186-1 : 2014 graphical symbols-Test methods- Part1: Method for testing comprehensibility に基づいた。

分類	意味
1	正しい
2a	間違い
2b	間違い、かつ反対の意味
3	分からない
4	無回答

2) 評価点の算出方法

各々の回答の 100 分率 (単位は%)

3) 適合基準

適合基準は、ISO/TC145/SC1 Criteria of acceptance に基づいた。

評価点	評価区分
「分類 1 正しい」が 66%以上	適合
「分類 1 正しい」が 65%以下	不適合

②四者択一方式

1) 評価基準

評価基準は、JIS S 0102-2000 消費者用警告図記号理解度試験に基づいた。

段階	評価基準	評価	回答者数
1 正解	図記号の意味を伝える用語	100 点	na1
2 誤回答 1	図記号の意味は正しく理解されていないが少なくとも表示者の意図に反する行動は回避できるといえる用語	60 点	na2
3 誤回答 2	伝達事項に関する安全・禁止・注意・指示であるということは伝わっていても、図記号の意味が理解されていないために表示者の意図に反する行動を回避できない可能性があると考えられる用語	30 点	na3
4 誤回答 3	伝達事項に関する安全・禁止・注意・指示であることを含め、図記号の意味が極端に誤って理解されているために表示者の意図に反する行動の発生を回避できないと考えられる用語	0 点	na4
回答がない (画面に回答を全くしなかった場合)		除外	除外

2) 評価点の算出方法

$$\text{評価点} = (100 \times na1 + 60 \times na2 + 30 \times na3) \div (na1 + na2 + na3 + na4)$$

na1~na4 は各段階の回答者数。無回答者は集計から除外。重複回答は低い方の段階に集計。

第2章

3) 適合基準

適合基準は、JIS S 0102-2000 消費者用警告図記号理解度試験に基づいた。

評価点	評価区分	
85 点以上	使用可	伝達事項の意味が正確に理解されており、図記号は問題なく使用してもよい。
66～84 点	使用可	図記号の使用に支障はないが、文字、文章による正確な伝達補助表示を必要とする。
31～65 点	使用不可	伝達事項の意味が誤って伝わり、このままの図記号の使用には支障があり、図記号を修正したうえ、再試験を必要とする。
30 点以下	使用不可	伝達事項の主旨が全く伝わらず、危害等の発生が予測されるので、この図記号の使用は止める。
誤回答 3 の回答率 5%以上	使用不可	伝達事項の主旨が全く伝わらず、危害等の発生が予測されるので、この図記号の使用は止める。

2.3.4 視認性試験

1) 評価基準

評価基準は、JIS S 0102-2000 消費者用警告図記号視認性試験に基づいた。なお、評価スケールの文言は、設問の意味をより正確に伝えるために平成 12 年度の試験と同様とした。

JIS S 0102-2000	見にくい	やや見にくい	どちらでもない	見える	容易に見える
今回の調査 (平成 12 年度と同)	形がわからない	形がやや見にくい	どちらともいえない	形が大体見える	形がはっきりと見える

段階	評価基準	評価	回答者数
5	形がはっきりと見える	100 点	nb5
4	形が大体見える	75 点	nb4
3	どちらともいえない	50 点	nb3
2	形がやや見にくい	25 点	nb2
1	形がわからない	0 点	nb1
回答がない (画面に回答を全くしなかった場合)		除外	除外

2) 評価点の算出方法

評価点 = $(100 \times nb5 + 75 \times nb4 + 50 \times nb3 + 25 \times nb2) \div (nb5 + nb4 + nb3 + nb2 + nb1)$
 nb1～nb5 は各段階の回答者数。無回答者は集計から除外。重複回答は低い方の段階に集計。

3) 適合基準

適合基準は、JIS S 0102-2000 消費者用警告図記号視認性試験に基づいた。

評価点	評価区分		使用条件
75 点以上	使用可	見やすさについては全く問題ない。	理解度の評価点 66 点以上必要
50～74 点	使用可	見やすさについて若干の問題がある。	このまま使用する場合は、理解度の評価点 85 点以上必要
25～49 点	使用不可	修正のうえ、再試験を行う。	—
24 点以下	使用不可	見やすさについて問題があり使用は止める。	—

第2章

2.3.5 理解度試験、視認性試験実施結果

1) 理解度：自由記述 採点規則

カテゴリー①公共・一般

項目	定義	1 正解回答（抜粋）	2 不正解回答（抜粋）
1 充電コーナー	携帯電話、スマートフォン等の通信機器及び電動車椅子等が充電できる場所を表示。	充電、コンセント、プラグ、電源、電気	Wi-Fi、USB ポート、インターネット
2 自動販売機	飲食物を購入できる自動販売機の場所を表示。	自動販売機、飲料の販売、セルフサービスの販売、日本円専用の自動販売機	コンビニエンスストア、売店、スーパーマーケット、飲食エリア、レストラン
3 海外発行カード対応ATM	海外で発行されたカードに対応している ATM、キャッシング機器及び機器が設置されている場所を表示。	国際ATM、海外発行カード対応ATM、ATM、銀行のATM、キャッシュコーナー	両替機、切符の購入、自動販売機、自動券売機、カード決済
4 礼拝室	宗教、宗派を問わず、祈ることのできる場所を表示。	礼拝室、祈祷室、イスラム教の礼拝所、イスラム教、教会、瞑想室	休憩室、正座、待合室、ヨガ、収監室、観光案内、椅子あり

カテゴリー②交通施設

項目	定義	1 正解回答（抜粋）	2 不正解回答（抜粋）
1 駅事務室／駅係員	駅務室、乗務員室、有人改札口など駅係員が配置された場所を表示。	駅員、駅員室、駅長、駅長室、職員用入口、ホームでの手助け、電車に乗っている改札員、駅案内人	駅、電車、鉄道、地下鉄、荷物検査、警備員、警察、通関窓口、電車に乗る準備、職員用トイレ、電車への入口
2 一般車	個人所有の車両全般が通行できる区分及び乗降所を表示。	乗用車、車、一般車両、乗用車専用道路、自家用車、軽自動車	タクシー、レンタル、駐車場、車の運転手、通行可能
3 レンタサイクル	貸出用や共有用の自転車が配置された場所及び施設を表示。	レンタサイクル、自転車貸出、チケットを買ったら乗れる、会員制レンタサイクル提供所	自転車、駐輪の料金支払、駐輪場、有料駐輪場、カード決済、自転車の販売機

カテゴリー③商業施設

項目	定義	1 正解回答（抜粋）	2 不正解回答（抜粋）
1 コンビニエンスストア	コンビニエンスストアの場所を表示。	コンビニエンスストア、食べ物または飲み物を買う、弁当屋、飲み物、サンドウィッチとドリンク	レストラン、カフェ、飲食場所、売店、スーパーマーケット、休憩所、フードコート、24 時間営業中、軽食休憩

カテゴリー④観光・文化・スポーツ施設

項目	定義	1 正解回答（抜粋）	2 不正解回答（抜粋）
1 イヤホンガイド	音声ガイドを聴くことのできる機器が設置されている場所、音声ガイドが用意されている場所及び施設を表示。	レンタルできるイヤホン／ヘッドホン、案内機、案内用イヤホン、音声ガイド、通訳ヘッドホン、音響サービス、音声	購入できるイヤホン／ヘッドホン、補聴器、ミュージックショップ、ヘッドホン着用禁止、イヤホンのテスト、耳栓を借

第2章

		受付、会場でレーザーの用意、デバイスのレンタル、ワイヤレス解説	りる、耳の保護、防音設備、音声映像書籍
--	--	---------------------------------	---------------------

カテゴリー⑨アクセシブル

項目	定義	1 正解回答（抜粋）	2 不正解回答（抜粋）
1 コミュニケーション：筆談対応	コミュニケーションの際に利用可能な筆談器具があることを表示。	筆談案内所、タブレット筆談、記入用の紙ペンあり、書面による情報を入力、筆記ボード、コミュニケーションエリア、描いて案内してくれる	インフォメーションカウンター、受付、記入、記名所、書類提出／作成、登録、伝言板、ID、教育、講座、ビジネスセンター、観光案内
2 アクセシブルタクシー	ユニバーサルデザイン仕様のタクシー輸送施設及びタクシー乗降所を表示。	タクシー、タクシー乗り場、大型タクシー乗り場	乗車、タクシー料金、駐停車場所、バス、乗り場

2) 理解度：四者択一 採点規則

カテゴリー⑤安全

項目	段階		
1 列車の非常停止ボタン	1	正解	列車の非常停止ボタン
	2	誤回答 1	非常ボタン
	3	誤回答 2	駅係員呼出ボタン
	4	誤回答 3	安全確認

カテゴリー⑥禁止

項目	段階		
1 ホームドア/ホーム柵：たてかけない	1	正解	ものをたてかけない
	2	誤回答 1	よりかからない
	3	誤回答 2	長尺物持込み禁止
	4	誤回答 3	スキーやサーフボードは袋に入れる
2 ホームドア/ホーム柵：乗り出さない	1	正解	乗り出さない
	2	誤回答 1	上にのぼらない
	3	誤回答 2	かけ込み禁止
	4	誤回答 3	床面が滑りやすいので注意

カテゴリー⑦注意

項目	段階		
1 ホームドア/ホーム柵：ドアに手を挟まないように注意	1	正解	手を挟まないように注意
	2	誤回答 1	触ると危険
	3	誤回答 2	静電気に注意
	4	誤回答 3	ドアを手で開ける

カテゴリー⑧指示





項目	段階		
1 シートベルトを締めてください	1	正解	シートベルトを締めてください
	2	誤回答 1	シートベルトの右と左に注意してください
	3	誤回答 2	シートベルトをゆるめてください
	4	誤回答 3	シートベルトをはずしてください

第2章




3) 試験結果及び評価一覧

JIS、ISO の適合基準で評価した結果は以下の通りとなった。



カテゴリー①公共・一般

項目		理解度試験 (自由記述)	ISO 適合基準評価 ○：適合 66%以上 ×：不適合 65%以下	視認性試験	JIS 適合基準評価 ○：75 点以上使用可(理 解度 66 点以上必要) ○：50～74 点使用可(理 解度 85 点以上必要) ×：49 点以下使用不可
充電コーナー		98.3	○	84.8	○
自動販売機		84.2	○	71.1	×
海外発行カード対応 ATM		94.4	○	77.5	○
礼拝室		42.2	×	71.9	×


カテゴリー②交通施設

駅事務室/駅係員		64.2	×	71.9	×
一般車		77.8	○	81.4	○
レンタサイクル		60.0	×	73.3	×



カテゴリー③商業施設

A 案コンビニエンスストア		55.2	×	71.0	×
B 案コンビニエンスストア		70.1	○	67.4	×


カテゴリー④観光・文化・スポーツ施設

イヤホンガイド		82.6	○	74.2	×
---------	---	------	---	------	---



カテゴリー⑤アクセシブル

コミュニケーション：筆談対応		22.7	×	68.8	×
アクセシブルタクシー		98.0	○	86.1	○


カテゴリー⑥安全

項目		理解度試験 (四者択一)	JIS 適合基準評価 ○：85 点以上使用可 ○：66～84 点使用可 (文字、文章による伝達補助 表示必要) ×：65 点以下使用不可	視認性試験	JIS 適合基準評価 ○：75 点以上使用可(理 解度 66 点以上必要) ○：50～74 点使用可(理 解度 85 点以上必要) ×：49 点以下使用不可
列車の非常停止ボタン		90.7	○	76.7	○


カテゴリー⑦禁止

ホームドア/ホーム柵： たてかけない		65.6	×	65.7	×
ホームドア/ホーム柵： 乗り出さない		87.4	○	72.6	○

カテゴリー⑧注意

ホームドア/ホーム柵： ドアに手を挟まないように注意		96.2	○	73.1	○
-------------------------------	---	------	---	------	---

カテゴリー⑨指示

シートベルトを締めて ください		98.7	○	77.8	○
--------------------	---	------	---	------	---

第2章

2.4 「標準案内用図記号ガイドライン改訂版」への採用

2.4.1 採用方針

採用にあたり、JIS、ISOの適合基準で評価を行ったが、その結果の扱いに関して、委員会で審議し、以下の結論を出した。

今回の調査は、回答者の過去の経験や学習に対する理解度の確認であり、新しい図記号案に対しては理解が及んでいないことがわかった。一方、項目と図記号案については、委員会で審議してきた結果であり、その必要性については十分検討してきた。従って、「理解度調査の適合基準に達しないものについては、補正または普及するための目安として考える」こととした。

視認性調査についても同様のことが言える。案内用図記号は概ね街中や施設内に表示されるもので、通常ある程度の距離を置いて確認する。従って、視認性は本来、実際の環境の中で評価されるべきものである。今回の視認性調査は製品に適用されることを前提とした調査方法に準拠したため、評価値をそのまま適用することはできないが、「図記号そのものが複雑な図形と感ずるかどうかを結論として導き出していると考えられるので、視認性補正に対する目安とする」こととした。

よって、「標準案内用図記号ガイドライン改訂版」に追加する図記号の採用方針に、平成12年度の交通エコロジー・モビリティ財団「案内用図記号の統一化と交通、観光施設等への導入に関する調査研究」の補正方針を適用した。

2.4.2 平成12年度「案内用図記号の統一化と交通、観光施設等への導入に関する調査研究」の補正方針

1) カテゴリー①から④の補正方針（※本事業のカテゴリー⑨はここに該当）

理解度	視認性		
	75点以上	50点以上 75点未満	50点未満
66点以上	特に補正の必要のないもの	視認性補正	再検討
66点未満 (理解度が低い理由を分析し、対応を図る)	理由① 日常的に見慣れていない →対応：このままで普及を図る。	特に補正の必要のないもの	再検討
	理由② 図形の表現が不十分 →対応：表現を工夫して原案を補正する。	表現補正	再検討
	理由③ 図材選定が不適切 →対応：図材を変更して原案を補正する。	図材変更	再検討
	理由④ 理由不明 →対応：提案そのものを再検討する。	再検討	再検討

2) カテゴリー⑤から⑧の補正方針

理解度	視認性		
	75点以上	50点以上 75点未満	50点未満
85点以上	特に補正の必要のないもの	視認性補正	再検討
66点以上 85点未満	特に補正の必要のないもの (注)文字による補助表示が必要なもの	視認性補正 (注)文字による補助表示が必要なもの	再検討
66点未満	再検討	再検討	再検討

※表中「視認性補正」において以下の条件を満たす場合は、「ISO TR7239 一般案内用図記号を使用するための制作及び原則」に規定されている作図条件を満たしているため、一般案内用図記号として、その視認性は十分確保されているものとし、この項目から除外する。条件：[35mm角（最小使用寸法）の場合、意味のある細部の線の最小幅を0.5mm以上とする]

第 2 章

2.4.3 採用方針適用結果









前記により採用方針を求め、委員会で審議して以下の結論を得た。

カテゴリー①公共・一般（※印=採用図記号）

項目		審議結果	理解度、視認性 再試験の要不要
1-25 充電コーナー	 ※ 理解度 98.3 視認性 84.8	図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
1-26 自動販売機	 理解度 84.2 視認性 71.1	項目を「飲料・スナック自動販売機」とする。図材を飲料とスナックとし、スナック菓子の表現を明確にし、視認性補正を施す。	不要
	↓補正案 	スナックを缶へ図材変更し、ペットボトル形状の補正も検討する。 ※図材変更理由：図記号案作成の当初は、ISOとの整合性を優先したが、日本では殆どが飲料のみの自販機であり、今後もその状況は変わらないという一般社団法人日本自動販売機工業会へのヒアリング結果も考慮した。 ※再補正案の承認は委員長一任とし、その結果をもってガイドライン改訂版に追加する。	
	↓再補正案  ※	再補正案は専門的に見て改善されている。 再補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	
1-30 海外発行カード対応 ATM (H27 年度分→デザイン見直し後に H28 年度試験実施)	 ※ 理解度 94.4 視認性 77.5	図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
1-36 無線 LAN (H27 年度分)	 ※ 理解度 74.4 視認性 91.4	平成 27 年度に確定済み。 図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
1-47 礼拝室 (H27 年度分→H28 年度試験実施)	 理解度 42.2 視認性 71.9	理解度 66 点未満の理由①日常的に見慣れていないに該当。 視認性補正を施す。	不要
	↓補正案  ※	補正案は専門的に見て視認性が改善されている。 補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。 ※ガイドライン改訂版に「宗教に関する図記号は、国家規格には適切ではない。」という一文を付記。	









第 2 章

カテゴリ②交通施設（※印=採用図記号）

項目		審議結果	理解度、視認性 再試験の要不要
2-17 駅事務室／駅係員 (H27 年度分→デザイン見直し 後に H28 年度試験実施)	 理解度 64.2 視認性 71.9	理解度 66 点未満の理由①日常的に見慣れていないに該当。 駅員と電車の比率を調整し、視認性補正を施す。	不要
	↓補正案 ※ 	補正案は専門的に見て視認性が改善されている。 補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
2-18 一般車 (H27 年度分→H28 年度試験実施)	※  理解度 77.8 視認性 81.4	図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
2-31 レンタサイクル	 理解度 60.0 視認性 73.3	理解度 66 点未満の理由①日常的に見慣れていないに該当。 ISO を参考に手の表現を白抜きとし、カードを大きく、磁器表現はなしとするデザインで、視認性補正を施す。 ※参考 ISO Rental bicycle 	不要
	↓補正案 A 案 ※  B 案 	ISO との整合及び専門的に見て補正案 A 案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
2-51 船舶／フェリー／港 (H27 年度分)	※  理解度 93.8 視認性 78.6	平成 27 年度に確定済み。 図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要



第2章

カテゴリ③商業施設（※印=採用図記号）


項目		審議結果	理解度、視認性 再試験の要不要
A案 3-9 コンビニエンスストア	 理解度 55.2 視認性 71.0	理解度 66点未満の理由②図形の表現が不十分、または理由③図材選定が不適切に該当。 「24h」の表記はしない。 A案に建屋のイメージを加えたデザインで、補正を施す。 ※参考 ISO：屋内表現  Packed lunch room  Indoor swimming pool  Indoor play area	不要
	↓補正案 A案  B案 	ISOの屋内表現の整合及び専門的に見て補正案A案を採用。ただし、「自動販売機」のペットボトル形状の補正の反映を施す。 ※日本フランチャイズチェーン協会へのヒアリング結果も考慮した。 ※再補正案の承認は委員長一任とし、その結果をもってガイドライン改訂版に追加。	
	↓A案の再補正案 ※ 	再補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	
B案 3-9 コンビニエンスストア	 理解度 70.1 視認性 67.4	数字表記は図記号として好ましくない。 24時間営業ではないコンビニエンスストアは、使用しにくいなどの理由から、採用せず。	不要

第2章

カテゴリ④観光・文化・スポーツ施設（※印=採用図記号）

項目		審議結果	理解度、視認性 再試験の要不要
4-16 イヤホンガイド	 理解度 82.6 視認性 74.2	視認性補正を施す。	不要
	↓補正案  ※	補正案は専門的に見て視認性が改善されている。 補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	

カテゴリ⑤安全（※印=採用図記号）


5-9 列車の非常停止ボタン	 ※ 理解度 90.7 視認性 67.7	図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
-------------------	--	-------------------------	----

カテゴリ⑥禁止（※印=採用図記号）

6-8-1 ホームドア／ホーム柵： たてかけない	 理解度 65.6 視認性 65.7	スキーのみの表現とし、補正を施す。	不要
	↓補正案 A案  ※ B案 	専門的に見て理解度、視認性について改善されている補正案A案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	
6-8-2 ホームドア／ホーム柵： 乗り出さない	 理解度 87.4 視認性 72.6	視認性補正を施す。	不要
	↓補正案  ※	補正案は専門的に見て視認性が改善されている。 補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	

第2章



カテゴリ⑦注意 (※印=採用図記号)

項目		審議結果	理解度、視認性 再試験の要不要
6-8-3 ホームドア／ホーム柵： ドアに手を挟まないよ うに注意	 理解度 96.2 視認性 73.1	視認性補正を施す。	不要
	↓補正案  ※	補正案は専門的に見て視認性が改善されている。 補正案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	

カテゴリ⑧指示 (※印=採用図記号)

8-1 シートベルトを締めて ください	 ※ 理解度 98.7 視認性 77.8	図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
---------------------------	--	-------------------------	----

カテゴリ⑨アクセシブル (※印=採用図記号)

9-1 オストメイト (H27年度分)	 ※ 理解度 3.1 視認性 65.9	平成 27 年度に確定済み。 図記号案を採用、ガイドライン改訂版に追加する。	不要
9-2 コミュニケーション：筆 談対応 (H27 年度分→デザイ ン見直し後に H28 年度試験実 施)	 ※ 理解度 22.7 視認性 68.8	全日本ろうあ連盟の「筆談」と「手話」 マークがあるが、本委員会の図記号は 図形的にも意味的にも異なるもので あり、必要である。 理解度 66 点未満の理由①日常的に見 慣れていないに該当。 使用して理解を広めていく。 図記号案を採用、ガイドライン改訂版 に追加する。	不要
9-14 アクセシブルタクシー	 ※ 理解度 98.0 視認性 86.1	図記号案を採用、ガイドライン改訂版 に追加する。	不要

第 2 章

2.5 表示事項及び推奨度

図記号の表示事項と推奨度について、平成 27 年度と平成 28 年度の 2 カ年で審議してきた全ての項目に対し、委員会で審議した。

なお、表示事項はこれまでの経緯及び既存 ISO 等の記述を参考に整理した。推奨度は、平成 13 年 3 月策定の標準案内用図記号ガイドラインで定めている推奨度区分を適用した。

<平成 13 年 3 月策定 標準案内用図記号ガイドラインで定めている推奨度区分>











推奨度 A	安全性及び緊急性に関わるもの、多数のユーザーにとって重要なもの及び移動制約者へのサービスに関わるものです。これらについては、図形を変更しないで用いることを強く要請します。
推奨度 B	多数の利用者が通常の行動や操作をする上で、図記号の概念及び図形を統一することによって利便性が高まると期待されるものです。これらについては、図形を変更しないで用いることを推奨します。
推奨度 C	多数の利用者が通常の行動や操作をする上で、図記号の概念を統一することが必要なものです。これらについては、基本的な概念を変えない範囲で適宜図形を変更して用いることができます。

第2章

2.6 平成27年度、平成28年度 審議項目の結果一覧






カテゴリー①公共・一般施設

(新規採用5項目、見直し1項目、現行維持4項目、不採用2項目)


表示事項	図記号	推奨度
新規採用		
1-25 充電コーナー Charge point		B
1-26 自動販売機 Vending machine		C
1-30 海外発行カード対応 ATM ATM for oversea cards		B
1-36 無線 LAN Wireless LAN		B
1-47 礼拝室 Prayer room		B
見直し		
1-2 案内 (表示項目「情報コーナー」から「案内」に変更) Information		A
現行維持		
1-1 案内所 Question & answer		A
1-4 乳幼児用設備 Nursery		B
1-60 ミーティングポイント Meeting point		B
1-80 エレベーター Elevator		B
不採用		
1-3 観光案内所	—	
1-5 授乳室	—	

第2章


カテゴリー②交通施設（新規採用3項目、見直し1項目、不採用2項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	2-17 駅事務室 / 駅係員 Station office / Station staff		B
	2-18 一般車 Car		B
	2-31 レンタサイクル / シェアサイクル Rental bicycle / Bicycle sharing		B
見直し	2-51 船舶 / フェリー / 港 Ship / Ferry / Port	(※図の変更)  現 ↓  新	B
不採用	2-2 地下鉄	—	
	2-37 バス停	—	

カテゴリー③商業施設（新規採用1項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	3-9 コンビニエンスストア Convenience store		C

カテゴリー④観光・文化・スポーツ施設（新規採用1項目、不採用1項目）




表示事項		図記号	推奨度
新規採用	4-16 イヤホンガイド Audio guide		B
不採用	4-14 ボランティアガイド	—	

カテゴリー⑤安全（新規採用1項目、不採用1項目）


表示事項		図記号	推奨度
新規採用	5-9 列車の非常停止ボタン Emergency train stop button		A
不採用	5-1 AED	—	

第2章


カテゴリー⑥禁止（新規採用2項目、現行維持1項目、不採用1項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	6-8-1 ホームドア：たてかけない Do not lean objects on the platform door		A
	6-8-2 ホームドア：乗り出さない Do not lean over the platform door		A
現状維持	6-1 携帯電話使用禁止 Do not use mobile phone		A
不採用	6-14 危険物	—	




カテゴリー⑦注意（新規採用1項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	6-8-3 ホームドア：手を挟まないよう注意 Caution, closing doors		A

カテゴリー⑧指示（新規採用1項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	8-1 シートベルトを締める Fasten seatbelt		A

カテゴリー⑨アクセシブル（新規採用2項目、不採用3項目）

表示事項		図記号	推奨度
新規採用	9-1 オストメイト用設備 / オストメイト Facilities for Ostomy / Ostomate		A
	9-2 コミュニケーション：筆談対応 Communication:Writing		A
	9-14 ユニバーサルデザインタクシー UD(Universal design) taxi		A
不採用	9-9 補助犬同伴	—	
	9-23 障害者用のヘルプカウンター	項目は必要、見送り。	


















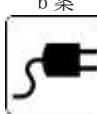












カテゴリー⑩お手洗関連（不採用8項目）

不採用	10-1 和式	項目は必要、見送り。
	10-2 洋式	項目は必要、見送り。
	10-8 ベビーチェア	項目は必要、見送り。
	10-9 おむつ交換台	項目は必要、見送り。
	10-10 キッズトイレ	項目は必要、見送り。
	10-12 多機能トイレ	項目は必要、見送り。
	10-13 多目的シート	項目は必要、見送り。
	10-14 フィッティングボード	項目は必要、見送り。

第2章











2.7 図記号補正の推移

カテゴリー①公共・一般施設






















	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
1-1 案内所	JIS  ISO 	—	—	—	—	図記号は 変更なし
1-2 情報コーナー	JIS 	—	—	—	—	図記号は変更なし 表示事項は変更あり 〔「情報コーナー」から 「案内」に変更〕
1-4 乳幼児用設備	JIS 	—	—	—	—	図記号は 変更なし
1-5 授乳室	ISO 		—	—	—	不採用
1-26 自動販売機	ISO 	—	—			再補正 
1-25 充電コーナー	(注：図の意味は異なる) JIS  ISO  ISO 	—	a 案  b 案  c 案  d 案 	b 案 	→	
1-30 海外発行カード対応 ATM	JIS 	 (東京都) 	a 案  b 案  c 案 	c 案 	→	
1-36 無線 LAN	ISO 		→	→	→	

第2章

カテゴリー①公共・一般施設（前頁の続き）






	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
1-47 礼拝室	—		a案  b案  c案 	H27 図で再試験 	 → 	
1-60 ミーティング ポイント	JIS 	—	—	—	—	図記号は 変更なし
1-80 エレベーター	JIS 		—	—	—	図記号は 変更なし

カテゴリー②交通施設






	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
2-2 地下鉄	—		—	—	—	不採用
2-17 駅事務室/駅 員係員	—		a案  b案  c案 	c案 	 → 	
2-18 一般車	—		—	H27 案で再試験 	→ 	
2-31 レンタサイク ル/シェアサイ クル	ISO 	—	a案  b案  c案  d案  e案 	e案 	A案  B案 	

第2章










カテゴリー②交通施設（前頁の続き）

	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
2-37 バス停	JIS 	 試験、未実施	—	—	—	不採用
2-51 船舶／フェリー／港	JIS 					

カテゴリー③商業施設










	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
3-9 コンビニエンスストア	—	—	—	 (東京都) 	A案  B案 	A案の再補正 

カテゴリー④観光・文化・スポーツ施設

	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
4-16 イヤホンガイド	ISO 	—	a案  b案  c案  d案  e案 	d案 		

第2章








カテゴリー⑤安全

	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
5-9 列車の非常停止ボタン	(注：図の意味は異なる) ISO  JIS 	—	a 案  b 案  c 案  d 案  e 案 	e 案 	→	

カテゴリー⑥禁止




	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
6-8-1 ホームドア：たてかけない	—	—	a 案  b 案 	b 案 	A 案  B 案 	
6-8-2 ホームドア：乗り出さない	—	—	a 案  b 案 	a 案 		

カテゴリー⑦注意

















	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
6-8-3 ホームドア：手を挟まないように注意	—	—	a 案  b 案  c 案  d 案 	b 案 		

第2章

カテゴリー⑧指示

	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
8-1 シートベルト を締める	ISO 	—	—		→	

カテゴリー⑨アクセシブル

	参考 JIS/ISO	図記号案 (H27 試験)	検討・補正案	図記号案 (H28 試験)	検討・補正案	最終図記号
9-1 オストメイト 用設備/オス トメイト	—		→			
9-2 コミュニケー ション：筆談 対応	JIS(外国語 対応) 		a 案  b 案  c 案 	a 案 	→	
9-14 ユニバーサル デザインタク シー	—	—	a 案  b 案  c 案  d 案  e 案 	e 案 	→	

あとがき

平成 27、28 年度の 2 カ年にわたり、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、よりわかりやすいサイン環境を推進されるために必要と思われる標準案内用図記号について検討して参りました。最後に、検討課程において残された課題点を以下の通りまとめます。

■図記号項目について

障害のある方が直接コミュニケーションできる場所を示すための「ヘルプポイント」については、障害者団体へのヒアリングであげられました。案内に関する図記号は、「? (案内所)」と「i (インフォメーション)」が既にありますが、障害のある方が直接コミュニケーションできる場所の需要等を把握した上で、JISZ8210 案内用図記号の「コミュニケーション」の応用例として「ヘルプポイント」を作成するなど、今後も引き続き検討が必要と考えられます。

「お手洗い」関連については、和式／洋式／ベビーチェア／おむつ交換台／キッズトイレ／多機能トイレ／多目的シート／フィッティングボードなど数多くの項目があがりましたが、国土交通省で多機能トイレの機能分散化についての議論が進められており、空間の考え方が整理される過渡期と判断し見送られることとなりました。今後の動向を踏まえつつ、引き続き検討が必要と考えられます。

「ユニバーサルデザインタクシー」は、セダン型タクシーに変わる次世代のタクシーとして車いすも乗降可能なワゴン型タクシー（JAPAN タクシー等）を図案化したものです。ユニバーサルデザインタクシー専用の乗降場などで使用することを想定したものでしたが、一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会にヒアリングした結果、「ユニバーサルデザインタクシーとしての項目を検討いただくことに異論はないが、今後セダン型タクシーに変わり、ほとんどの法人タクシーがユニバーサルデザインタクシーに置き換えられる予定であり、専用の乗降場はなくなり、既に作成されている「タクシー／タクシー乗り場」の図記号が浸透しているので、新たな図記号が作成されることにより、利用客が混乱することも考えられる」とのご意見を頂き、最終図案がまとまっておりましたが、標準案内用図記号ガイドライン改訂版への採用は見送ることとなりました。今後図記号検討の機会が生じた場合は、今後の動向も踏まえつつ、再度検討項目として図案検討することも必要と考えられます。

■試験方法について

平成 11、12 年度、はじめて標準案内用図記号を検討作成した際に「理解度試験」と「視認性試験」が採用されました。理解度試験は、ISO9186-2000（図記号の作成と試験の手順）を、視認性試験は JISS0102-2000（消費者用警告図記号一試験の手順）を準用しました。その後も上記の試験を実施した上で、図記号が追加されてきましたし、本事業でも同様の試験方法を準用いたしました。

「理解度試験」は、図案を一つずつモニター上に示し、その意味を自由記述で記入してもらい、評価ルールを設定した上で回答結果を一つ一つ分析、評価する方法です。しかし、図案だけを示すのではその状況を理解するのに時間がかかり、回答者への負担が大きくなることが考えられ、また自由記述のため、評価ルールを毎回設定しなければならない上に、一人一人の回答結果の分析に時間が要することが指摘されています。

また、「視認性試験」は、8mm 角に縮小した図案を一つずつモニター上に示し、5段階（形がはっきり見える－形が大体見える－どちらともいえない－形がやや見えにくい－形がわからない）で評価する方法です。これは印刷された地図や案内マップなどで使用されることを前提として、8mm 角での視認性を評価する方法です。しかし、スマートフォンやタブレット等での地図や案内マップが使用されるようになった今、8mm 角以下で図記号が表示されることも多くなり、実際の使用状況を考えると、8mm 角よりも小さいサイズでの視認性を確認する必要性も指摘されています。

以上を踏まえて、だれもがわかりやすい、見やすい図記号の作成を目指すために、より使用実態に即した新たな試験方法の検討や、8mm 角より小さいサイズでも判別することができる図記号の作成原則の検討など、継続的な検討を重ねていく必要があるかと思えます。